

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：アスク日吉本町第二保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：園長 永尾 悦子	定員（利用人数）：60名 （利用人数：60名）
所在地：〒223-0062 横浜市港北区日吉本町2-46-24	
TEL：045-566-6445	ホームページ： nihonhoiku.co.jp/blog/hiyoshihoncho2
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2012年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員： 8名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 14名 栄養士 1名
	看護師 1名 事務員 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 3ヶ所
	園庭：1か所、屋上1か所 調理室 1室
	事務室 1室 調乳室 1室
	相談室 1室 洗濯室 1室
	配膳室 1室 更衣室 1室

③ 理念・基本方針

【保育理念】

「未来を生きる力を培う」

自分らしく、生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。

【保育方針】

一人ひとりに心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行うことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための、“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます。

●自らの伸びようとする力を支えます。

●五感を養って感情を豊かにします。

●後伸びする力を育みます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

アスク日吉本町第二保育園は、横浜市営地下鉄グリーンライン日吉本町駅から徒歩5分、閑静な住宅街の中にあります。天気の良い日は園庭や近くの鯛ヶ崎公園等へお散歩に出かけたり、屋上園庭でゲーム遊びをしながら、伸び伸びと過ごしています。

園目標の「心も体も元気な子」を目指し、心身ともに健やかでたくましく育ててほしいと思いながらお友達や保育者とのかかわりを大事に、毎日楽しく過ごしています。

<各種プログラムの実施>

園では、系列グループの講師が、体操、英語、リトミック、ダンスの活動を行います。体操では、マットや跳び箱、大縄といった用具を使った運動や全身を動かして遊ぶ体操等を行っています。英語では、音楽に合わせて歌や、英語でのゲーム、単語等の基礎的な英語学習を行っています。リトミックでは、リズムに合わせて、楽器を鳴らしたり体を動かしたりして、音に触れる、楽しむといった活動を行っています。ダンスでは、音楽に合わせて体を動かしたり、講師の方の振付を真似したりして、音楽に合わせて体を動かすといった活動を行っています。

<クッキング>

園では、月に一回、栄養士と一緒に年齢に合わせたレシピのお菓子作りや、季節に合った食材を使いクッキングを行っています。自分たちで作ったものを食べる事で、食育や食事のマナー、食べ物への感謝の気持ちが育っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年8月1日（契約日）～ 令和5年4月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	8回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) クラス担任が子ども一人ひとりの生きる力を育てています

園では幼児も含めてクラス担任制を取り、一人ひとりの子どもを把握し、子どもにしっかり向き合って子どもを育てています。子どもが自分の気持ちを表現できない時は、気持ちを代弁したりして自分の気持ちが言えるまで、穏やかな雰囲気の中で待つようにしています。そのため職員には心の余裕が持て、ヘルプを出せる環境づくりに配慮しています。子どもを把握することにより職員は日々の子どもの変化に気づき、自ら育とうとする状況を見守っています。遊びや活動において、玩具などの環境を整え、子どもの意向を聞き、子どもが自主的に表現して行動できるようにしています。

2) 子どもの状況を保護者と共有し、支援しています

園では送迎時にクラス前の廊下まで入ってもらい、保育の内容を保護者に知らせています。ICTのアプリや懇談会、園だよりなどでは多くの写真などで保育の状況を伝えています。園長や職員は、保護者に常に一言の声をかけ、相談しやすい状況を作っています。相談は園外での場所なども考えて話しやすい環境に配慮しています。

3) 学びや話し合いにより、職員が子どもへの対応を振り返っています

新しい園長が着任し、評価を園の課題を考える良い機会だと捉え、職員は保育を真摯に振り返っています。保育サービスを提供する側本位の実施方法になっていないかと、子どもの立場になって見直しています。園の取組である「心身ともに健やかでたくましく」また「お友だちや保育者とのかかわりを大事にする」ことのために、職員は子どもへの対応方法を話し合い、実行しています。検討する時間が取れない中で、自分たちの保育を見つめなおし自己評価を行っています。小さなグループでの話し合いでファシリテータが意見を引き出し、お互いの意見や情報を共有し、保育に生かしています。

4) ニーズに基づいた地域支援や地域交流への取組が期待されます

法人グループ運営理念の一つに「地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します」を掲げていることもあり、園でも地域との連携、地域の子育て家庭への支援を大切に考えています。しかし、計画のみでなかなか実現に至っていないことを園長をはじめ職員も自覚しています。特に2020年からのコロナ禍で実施環境の難しさもあ

り、今年度も事業計画や子育て支援計画の策定をしながら中止になったイベントなどがありました。感染対策等にも配慮しつつ、着手可能な地域支援について職員と共に検討することが期待されます。

5)子どもの安全と効率を考えた整理整頓への取組が期待されます

保育クラスや園庭、屋上園庭に多くのおもちゃや遊具を備え、子どもが選択できる幅を広げています。クラスごとの限られた空間の中で、効率よい物品の整理や管理が課題となっています。子どもの安全性にもつながるため、園内プロジェクトなどにより取り組まれることが期待されます。4S運動での整理整頓や動線確保などの検討が望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自己評価での保育の振り返りは職員間で、問題点を確認し改善策を考える良いきっかけとなりました。

また、園全体で運営方針や理念の理解をより深め今後の保育に活かしていける話し合いが持てたことは自園の保育の質の向上につながっていくと思います。

今後の課題としては、『地域貢献に関する働きかけ』『保護者が園生活に関われる機会を多く持てる、より開かれた園作り』の改善、充実を目指してまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり